



2020. 3. 1

3月 ちとせだより

幼保連携型認定こども園
神戸 YMCA ちとせ幼稚園

生活発表会では、こどもたちの劇遊びの一端を見ていただきました。お運びくださった皆さまには、お忙しい中ありがとうございました。こどもたちの表情や動作、声などから、感性の瑞々しさと成長を感じていただけたと思います。「一端」と書いたのは、こどもたちと教諭が重ねてきたやり取りに思いを馳せてくださったなら更に嬉しいな、という思いからです。

さてこの1年間、ちとせだよりに掲示してきた年主題は、詩編の1文でした。

いかに幸いなことか
神に逆らう者の計らいに従って歩まず
罪ある者の道にとどまらず
傲慢な者と共に座らず
主の教えを愛し
その教えを昼も夜も口ずさむ人。

その人は流れのほとりに植えられた木。
ときが巡り来れば実を結び
葉もしおれることがない。
その人のすることはすべて、繁栄をもたらす。

(詩編1編1節から3節)

聖書に描かれるのは雨が少ない、厳しい気候の地域です。木々は川や湖の側でしか育ちません。「流れのほとり」は、根がたっぷり水を吸うことができる、木々の成長に適した場所のことです。神さまの教えを守る人は、流れのほとりに植えられた木のように幸せだ、ときが来れば豊かな実りに恵まれ、繁栄を導く、と書かれています。

信仰の大切さを伝える例えですが、保育を行う者には、こどもたちにとって自分たちは、神さまの愛で豊かに潤う「流れのほとり」でいられたか、こどもたちが伸ばした枝は葉を艶やかに繁らせているか、その根は強く太く育っているかという、問いかけとして受け取れるのです。

まもなく卒園の時を迎えますが、巣立っていくこどもたちには新たな「流れのほとり」が恵まれ、幹が、枝が、根が、もっともっと強く、太く育つように願っています。

こどもたちが実を結ぶ「とき」が巡り来るのは、まだ少し先のことでしょう。その「とき」が来たら、どうぞ神さま、一人ひとりに豊かな実を結ばせてくださるよう、その「とき」のために今私たちを用いてくださいますように。

年主題 『ことばに満たされて ～ひびきあう～』

<年主題聖句> 「その人は流れのほとりに植えられた木」 (詩編1編3節)

3月主題 『なかまと

心はずませて』

<聖句> 「成長させてくださったのは神です。」

(コリントの信徒への手紙Ⅰ 3章6節)